

平成26年度「まちづくり座談会」まとめ

町は6月16日から24日までの間、町内各地区9会場でまちづくり座談会を開催しました。今年の座談会では、各会場で「学校の統廃合」「企業誘致」「定住促進」など、少子化や人口減少にかかわる話題が多く出されました。延べ237人の参加者の皆さんから寄せられたさまざまなご意見について、一部を抜粋して紹介します。また、会場で配布したアンケートに記載されたご意見・ご要望の一部も併せて紹介します。（大雨災害からの復旧などについては、広報紙「紫波ネットNo.891 2014.7月号」にまとめています）

○ご意見・ご質問 ●町からの回答

赤沢公民館会場

◎日時 6月16日（月） 午後7時～9時

◎参加者 24人

○地区の戸数が減少しており、空き家や農地の管理が不安。

●行政の私有地への立ち入りは法的に難しいですが、荒廃は地区にとっても良くないことですので、今後、行政区長を通じて空き家調査を行う予定です。所有者の確認を取り、管理をお願いしていきたいと考えています。

【補足】8月に行政区長の皆さんにご協力いただいて実施したアンケート調査の結果、町内には407戸の空き家があり、そのうち取り壊しが必要と思われるものが57戸あることが分かりました。この57戸の空き家については、所有者などの調査を進めていく予定です。

○児童館の統合などの予定はあるのか。要支援・要介護サービスが変わるようだが、どのようになるのか。要支援の段階における生きがいにつながる施策も考えてほしい。

●赤沢児童館は昨年50周年を迎えており、建物も中央保育所の次に古い保育施設です。東部地区で統合する場合、どこの場所に設けるのかということを考える必要があります。また、地域の総合的なサービスとして、児童施設や高齢者施設を一体的に検討する考え方もあります。皆さんからお話を聞く機会も設けたいと考えています。

要支援サービスは、介護給付サービスから市町村の事業に移行します。平成29年度までに町でも制度を作り、現在の介護保険制度で行われているサービスを、町の事業として実施する予定です。その中で、現在行っているデイサービスと訪問サービスの質の維持、そして子どもたちを含めた多様なサロンづくりについても検討していきます。

水分公民館会場

◎日時 6月17日（火）午後7時～9時

◎参加者 16人

○水分地区の追分団地からの通学路では、17人の子どもたちが水分小学校に通っている。全国的に、児童の通学している列に車が突入する事故が増えているが、歩道の建設の完成目途はいつごろか。

●追分団地から水分小学校までの通学路については、平成24年の全国一斉通学路緊急合同点検の際に、現地の状況を確認しています。本年度は、追分団地から下二合橋までの設計をする予定です。この調査設計では、路肩を広げて歩行空間を確保するなどの歩道整備の方法や、道路のどちら側に整備するのがよいかなどを検討していきます。調査設計がまとまり次第、PTAの代表の方々と協議し、予算措置が講じられた際は来年度から工事に着手したいと考えています。

また、スクールガードの充実・増員も検討するなど、地域の中の見守り体制も強化していきたいと考えています。

○町長の公約にもあった企業誘致はどのように進めていくのか。（赤沢・佐比内・彦部地区でも質問有り）

●町は現在、主に首都圏で開催される企業懇談会などに参加し、企業へのPRを行っています。具体的には、紫波町や盛岡広域地域の立地上の特色や企業への支援情報などを発信しています。企業立地の場所としては、犬淵工業団地や南日詰工業団地と併せて、交通の利便性が良い紫波インターチェンジ周辺を候補地として考えています。

長岡公民館会場

◎日時 6月18日(水) 午後7時～9時

◎参加者 15人

○4人に1人は高齢者の時代。子どもが少なくなっている厳しい状況の中で、学校の統廃合はどのように進めていくのか。今後をどのように考えているのか。(赤沢・佐比内・古館・彦部・志和地区でも質問有り)

●町内では、児童生徒数の減少に伴い、西部・東部地区の学校の小規模化が進んでおり、複式学級が増加する傾向にあります。現在のゼロ歳児が就学する平成32年度には、本年度と比較して162人の小学生が減少すると見込んでいます。

今後、少子化時代の進展に対応するため、教育委員会事務局内にプロジェクトチームを置き、「少人数時代における紫波町教育の在り方」の検討を進めていく予定です。「子どもが大人になったときに、しっかり生きていけるか」「今の子どもたちにとって、どんな環境が良いのか」という視点や、地域づくりの観点などから検討するとともに、有識者や町の皆さんからご意見をいただく機会を設けるなどして、丁寧に対応してまいります。

○町の借金が気になる。返済計画はどうなっているのか。

●町債(町の借金)の毎年の借入額は、ここ数年、およそ10億円ほどです。平成24年度は大型事業が重なったため少し多い14億円となりました。町債は、建物や道路、水道など、決められた用途でしか借りられません。町債の借入残高は過去10年間で大幅に減らしてきましたが、ここ数年は再び増加傾向にあります。

町債は、財政健全化法(地方公共団体の財政の健全化に関する法律)や地方債の許可制によって、コントロールされています。一方で、平成13年度から地方交付税の原資を補うため、臨時財政対策債によって、地方の財源不足を補う方法がとられてきました。この償還に当たっては、国が地方交付税で財政措置することになっているため、地方にとっては地方交付税と同じ意味を持ちます。しかし、国全体での臨時財政対策債の残高が大きくなってきたため、本年度からは発行を国全体で抑制することになっています。

町債は、町の事業を進めていくために必要です。しかし、借入残高が多くなると問題があるので、毎年の町債の発行額をおおむね10億円程度にコントロールすることや実質公債費比率(平成25年度:11.5%)などの財政健全化指標を見ながら財政運営をしていきたいと考えています。

また、昨年8月9日に発生した大雨災害からの復旧費用については、昨年からの3年間で、総額約9億円を町債で確保する予定です。その元利償還金の8割から9割程度が、国から財政措置される見込みです。

佐比内公民館会場

◎日時 6月19日(木) 午後7時～9時

◎参加者 22人

○いわて国体で自転車ロードコースになる道路には、舗装の修復が必要などところがある。工事から30年以上経っており、かなり傷んだ道路だと思う。普段から少しずつでも整備できないか。

●早急に調査・点検の上、最重要な危険箇所から順次補修に当たりたいと思います。また、道路の補修以外にも「選手を気持ちよく迎えるには、どうしたらよいのか」「コスモスロードを広げたらよいのでは」という声もいただいています。国体を開くということは、町を知ってもらうチャンスです。おもてなし方法の検討、施設やコースの整備など、さまざまな準備を積み重ねながら、来るべき日を迎えたいと考えています。

○クマやシカが増えていると感じている。銃猟禁止区域の看板が新しくなっていたが、彦部山の周り、長岡の周り、赤沢小学校の周りとある中でも佐比内地区だけ特別多いように思う。このままでは「フルーツの里」ではなく「鳥獣の楽園」になってしまうので、禁止区域は縮小した方がよいのではないか。

●この5年ほどの間に、クマ、ハクビシン、シカ、イノシシが増えました。禁止区域は5年ごとに見直しており、地域の方々の意見を反映させながら作成しています。次の見直しのときは、もっと広くご意見を伺いながら作りたいと思います。

また、町の猟友会は20数人しかいないので、隊員を増やすことも考えていく必要があります。

古館ふれあいホール会場

◎日時 6月21日（土）午前10時～正午

◎参加者 35人

○新庁舎のバリアフリー計画を教えてください。

●新庁舎の1階には、町の皆さんがよく訪れる町民課、福祉課、長寿健康課を配置しており、段差の少ない建物にする計画です。2階と3階に上るためのエレベーターも整備し、各階には多目的トイレ、1階にはオストメイトのトイレも設置します。

○行政区長や婦人協力隊、交通安全母の会など、さまざまな役がある。若い時にはできたが、地区全体で高齢化が進んでおり、役を務められる人がいない状態。何か方策を考えてほしい。

●高齢化は、どの地区でも進んでいる状況なので、町全体で考えていかなければならない問題だと捉えています。今一度、現在の取り組みを検証してまいります。

○古館駅周辺の整備を早めにしてほしい。駐輪場が満杯だ。（アンケート記載内容）

●古館駅周辺は、町内にある他の2駅に比べて公共施設の整備が遅れており、朝夕の通勤通学時に混雑し危険な状態になることから、町としても交通環境の改善が必要だと考えています。古館駅周辺の施設整備を進めるためには、課題が山積していることから、現在これらの整理、検討を進めているところです。整備方針を決定した上で、財政事情を考慮しながら事業を進めたいと考えています。

情報交流館会場

◎日時 6月21日（土）午後1時30分～3時30分

◎参加者 28人

○えこ3センターの借金を減らすには、今やめるのが一番良いと思うが、現在の取り組みはどうなっているのか。借金の償還計画を立てて、改善するようにしてほしい。

●えこ3センターは「環境と福祉のまち」の推進を念頭に置き、資源循環と家畜排せつ物処理のために造った施設です。新しい攪拌機かくはんきを導入したことにより、県内のホームセンターで3000袋ほど新規の販売が増えています。堆肥は需要があるため、販売の増加に対応しながら、赤字を少しでも減らしていきたいです。

○オガール地区沿線にある樹木の管理方法について十分に考えてほしい。

●希望ヶ丘線、中新田線の植樹計画は、災害の発生で遅れていますが、地区周辺にお住まいの皆さんの意見を聞きながら決めたいと考えています。計画に当たっては、景観が長続きし管理しやすい方法を目指します。

赤石公民館会場

◎日時 6月22日（日）午前10時～正午

◎参加者 44人

○地域の街灯設置の要望はどのように申請すればよいのか。（水分地区でも質問有り）

●防犯灯の設置には、東北電力からの寄贈灯を活用する方法と、設置費用を各行政区で負担していただく2つの方法があり、各行政区とも主に寄贈灯を利用いただいています。震災以降、しばらく寄贈がありませんでしたが、本年度は7基の寄贈を受けています。これに対して応募は39件あり、寄贈灯だけでは皆さんの要望にお応えできない状況です。

地域の負担で設置をご検討の際は、添架式で1灯5～8万円、ポール単独で10万円ほど見込んでいただければと思います。

設置後の防犯灯の電気料金を町で負担できる制度もあり、また、道路管理上必要と考えられる交差点などへの設置は、町で対応可能な場合もありますので、ご相談ください。

○赤石第2こどもの家は、育ちざかりの子どもたちの活動には狭すぎる。どこの地区でも遊び場がないことを嘆いている。町ではどんな方針で運営しているのか。

●「こどもの家（放課後児童クラブ）」は、1人当たり1・65㎡以上のスペースを確保するように定められています。放課後、家に誰もいない家庭の子どもを施設で守るという目的で運営しているため、運動を想定した造りにはなっていません。

【補足】こどもの家には公営と民営があるため、一律に専用の遊び場を確保することは難しいので、近くの公園などの活用を考えていきたいと思えます。

彦部公民館会場

◎日時 6月23日（月）午後7時～9時

◎参加者 12人

○（一社）観光交流協会が行っている駅前のレンタサイクルの利用状況を教えてほしい。

●紫波中央駅には4台、日詰駅には2台のレンタサイクルを設置しています。設置してからの利用率は良かったのですが、用途目的が観光ではない場合もありました。現在、土日にも対応できるような体制を目指しているところです。情報交流館の中に、観光案内板の設置をするなど「自転車のまち 紫波町」をPRしていきたいです。

○総合体育館の機械器具が老朽化しており、買い替えが必要だと思う。

●給食センターと総合体育館は、町でいち早く取り入れた施設のため、機械器具の老朽化が進んでいます。更新については、体育協会と連携しながら進めていきます。

J A 志和支所会場

◎日時 6月24日（火）午後7時～9時

◎参加者 41人

○「この町に住んでもらう」という定住促進の視点から人口増加対策を考えてみてはどうか。女性を大事にし、子育て支援を充実させ、医療費を無料にするなど、発想の転換が必要だと思う。

●町の人口は少しずつ減る傾向にあり、国道4号沿いの人口は増えている一方、西部・東部地域では減少しているのが現状です。対策としては、町の人が働ける場の創出と、子どもを安心して産み育てられる環境の整備を進めていきたいと考えています。そのためにも、企業誘致を進めるとともに既存企業の支援を実施すること、子どもを安心して産み育てられる制度を充実していくことが必要であると考えています。

○新庁舎に移転した後の庁舎や保健センターの跡地の使い道は。

●町で公共施設として使用するか、町の所有地とするかなどを庁内で調査し、将来的に利用する部署がない場合には、土地を貸すか売るかなど、さまざまな検討をする必要があります。町民のご意見を聞くと同時に、維持管理費などを含めた公共施設の全体的なバランスを考えながら決めていかなければなりません。

○昨年すこやか号のコースが変わり、不便になった。もう少し細かく回ってほしいし、1周にかかる時間も長すぎるので変更してほしい。

●今回の変更で、路線を大幅に増やし、1周にかかる時間も短縮しましたが、すべての皆様のご要望をカバーすることは難しいです。ルートの変更は、国の許可が必要であるため、すぐには行うことができませんが、次の改訂のときの参考とさせていただきます。